

# 病床の確保

## 病床確保 レベル1

確保病床数  
5,283床

〔うち 重症者用 420床〕

通常医療への振り替え

重症者用病床数の引下げ

病床使用率が、  
20%未満 かつ 下降傾向 など

## 病床確保 レベル2

現在の確保病床数  
7,262床

〔うち 重症者用 420床〕

オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床  
第七波において重症者用病床はLV1水準を維持

- ✓ 病床確保レベルを、レベル2からレベル1へ引下げ
- ✓ 一般医療や救急の状況、重症患者の割合などに応じて、通常医療への振り替えや、重症者用病床数の引下げなど、柔軟な運用を行う

# 宿泊療養施設の確保

## 施設稼働 レベル1

稼働居室  
約9,000室

うち

医療機能強化型 520室  
妊婦支援型 50室

新規陽性者数が **減少傾向** かつ  
6,000人未満(7日間移動平均) など

## 施設稼働 レベル2

現在の稼働居室  
約13,000室

うち

医療機能強化型 520室  
妊婦支援型 50室

- ✓ **施設稼働レベル**を、レベル2から**レベル1**に引下げ
- ✓ 施設稼働レベル1では、各施設の一部フロア休止及び人員体制を縮小し、**運営を効率化**

# 今冬の感染拡大に向けた課題と対応の方向性（骨子）

今冬のオミクロン株と季節性インフルエンザとの同時流行も見据え、必要な医療を的確に提供し、国民・都民一人ひとりの命と健康を守るために、先手先手で対策の検討に着手

## 課題と対応の方向性

発熱患者が急増した場合に、発熱外来を受診する患者をいかに重点化するか

➡ 診療・検査医療機関を更に拡大、陽性者登録センターの能力引上げ等

インフルエンザ受診や治療薬を希望する患者にいかに対応するか

➡ オンライン診療の拡充、抗インフル薬を迅速に受領する仕組みの構築等

通常医療との両立、高齢者向け病床の確保

➡ 第7波を踏まえた必要な病床の確保、高齢者等医療支援型施設開設等

ワクチン接種の推進

➡ 高齢者施設等入所者の5回目接種促進、インフルワクチン予防接種補助等

国には、検査キットの確実な供給や抗インフル薬の柔軟な処方等を要望

# 今冬の感染拡大に向けた課題と対応の方向性（骨子）

インフルとの同時流行に向けて、発熱外来を受診する患者をいかに重点化するか

	課題	対応の方向性
発熱外来	患者が急増し 発熱外来がひっ迫	<ul style="list-style-type: none"><li>診療・検査医療機関（約4,700機関）を更に拡大（医師会への働きかけ、特に小児、診療所の施設整備支援、検査機器の増設支援、年末年始の協力金支給）</li><li>陽性者登録センターの対応能力の引上げ（現状8千人/日を順次拡大）</li></ul>
周知啓発	若い軽症者をいかに 陽性者登録センター に誘導するか	<ul style="list-style-type: none"><li>重症化リスク等に応じた受療行動を都民に呼びかけ 受診前にまずはキットで自主検査 陽性なら登録センターへ 解熱鎮痛薬や検査キットを事前に常備を</li></ul>
検査 キット	発症時に迅速な検査 が必要	<ul style="list-style-type: none"><li>コロナ検査キットを事前に薬局やネットで個人購入し備蓄促進</li><li>有症状者等へのコロナ検査キット配布の継続</li></ul>
自宅療養	フォローアップ強化	<ul style="list-style-type: none"><li>うちさぽ（最大400回線）・FUC（最大600回線）のさらなる増強を検討</li></ul>

# 今冬の感染拡大に向けた課題と対応の方向性（骨子）

## インフル受診や治療薬を希望する患者にいかに対応するか

	課題	対応の方向性
オンライン診療	<b>診断の迅速化が必要</b> 抗インフルエンザ薬は 48時間以内に投与必要	<ul style="list-style-type: none"><li>オンライン診療・電話診療体制を拡充し、診療のキャパシティとアクセスを強化（限界あり）</li></ul>
治療薬	<b>抗インフルエンザ薬は発症後48時間以内の服用が必要</b>  コロナ経口薬へのアクセス向上が必要	<ul style="list-style-type: none"><li>コロナ対応と同様に、抗インフル薬を速やかに受領する仕組みの構築（迅速な配送や地元薬局等での受取）</li><li>同時流行期は、オンライン診療等でも臨床診断により抗インフル薬の投与を可能に（コロナ検査陰性なら抗インフル薬を処方）【 国に要望】</li><li>コロナ治療薬の確保、流通の改善 【 国に要望】</li></ul>

# 今冬の感染拡大に向けた課題と対応の方向性（骨子）

## 入院が必要な患者への対応

	課題	対応の方向性
医療機関等	通常医療との両立 介護度の高い高齢者向け病床の確保 医療従事者への感染等による欠勤	<ul style="list-style-type: none"><li>● 第7波を踏まえた必要な病床の確保 （現在の確保病床7,262床、冬はより通常医療との両立を図る必要）</li><li>● 高齢者等医療支援型施設等においてADL（日常生活動作）の低下を予防</li><li>● 新たに高齢者等医療支援型施設（青山）を開設 12月～ （酸素・医療提供ST（都民の城）から機能転換）</li><li>● 酸素・医療提供STにおいて、より介護度の高い高齢者の受入、医療機関からの下り患者の直接受付開始</li><li>● 重症度やリスク因子等を踏まえ、優先度に応じた入院調整を実施</li><li>● 通常医療と感染症医療の両立に向け、病院におけるゾーニングなどの施設整備への支援を強化</li></ul>
宿泊療養施設	感染拡大期の受入者の重点化	<ul style="list-style-type: none"><li>● 第7波を踏まえた必要な居室数の確保 （現在の確保居室数 約13,000室）</li><li>● 感染拡大期は、50歳以上や重症化リスクの高い方、早期隔離が必要な方を重点的に受入</li></ul>

# 今冬の感染拡大に向けた課題と対応の方向性（骨子）

## 高齢者対策

	課題	対応の方向性
高齢者対策	高齢者施設への支援  介護度の高い高齢者向け病床の確保	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>高齢者施設等入所者の確実な5回目接種促進</b>（接種間隔の短縮を見据え、接種計画策定の働きかけ・ワクチンバスの派遣）</li><li>• <b>施設の感染制御・業務支援体制の強化：即応支援チーム派遣体制</b>（10施設/日）、保健所からの感染情報等に基づいた能動型支援</li><li>• <b>高齢者施設への往診体制強化：施設向け医療支援チーム体制</b>（25地区医師会）</li><li>• <b>高齢者施設等職員の頻回検査（週1回 週2～3回）を実施</b></li><li>• <b>新たに高齢者等医療支援型施設（青山）を開設【再掲】</b></li><li>• <b>酸素・医療提供STにおいて、より介護度の高い高齢者の受入、医療機関からの下り患者の直接受付開始【再掲】</b></li><li>• <b>コロナ治療が終了した高齢者の療養病床への転院促進</b></li></ul>

# 今冬の感染拡大に向けた課題と対応の方向性（骨子）

## ワクチン接種の推進

	課題	対応の方向性
コロナ ワクチン	同時流行前に オミクロン株対 応ワクチン等の 接種を促す必要	<ul style="list-style-type: none"><li>• ワクチンチーム等を通じ、<b>早期の接種券発送</b>を働きかけ</li><li>• 都大規模接種会場で、<b>エッセンシャルワーカーへの接種開始</b>（9/22～）、<b>対象者全員への接種に拡大</b>（10/6 予定）</li><li>• <b>高齢者・障害者施設入所者の確実な5回目接種促進</b>（接種間隔の短縮を見据え、接種計画策定の働きかけ・ワクチンバスの派遣）【再掲】</li></ul>
インフル エンザ ワクチン	同時流行前に インフルエンザ ワクチン接種を 促す必要	<ul style="list-style-type: none"><li>• 65歳以上の方と、60歳から64歳で基礎疾患がある方に、<b>インフルエンザワクチン予防接種の自己負担額の補助</b></li></ul>




# 国への要望事項

- 1 **コロナと共存する社会**を実現するための取組
- 2 **医療DX**の推進
- 3 **サーベイランス体制**の構築
- 4 **検査・診療・入院医療体制**の確立等
- 5 **オミクロン株対応ワクチン等**の接種促進
- 6 **季節性インフルエンザワクチン**の接種促進
- 7 適切な**水際対策**
- 8 新型コロナウイルス感染症にかかる**対策経費の全面的支援**
- 9 新たな感染症の発生・まん延への備えとしての**感染症法等の改正**

# 自宅療養への備え

## ○ 普段使用している医薬品・食料品を少し多めに備える 「日常備蓄」を実践しましょう

### 備えておきたい医薬品等の事例

- ρ 常備薬(市販薬)、解熱鎮痛薬等  
市販の解熱鎮痛薬は都薬剤師会HPを参照→ 
- ρ 検査キット(体外診断用又は第1類医薬品)
- ρ 体温計(電池残量も確認しましょう)
- ρ マスク
- ρ アルコール消毒液
- ρ 洗剤
- ρ 生理用品
- ρ 手洗い石鹸
- ρ ごみ袋
- ρ 衛生用品等の必要なもの
- ρ トイレtp>ーパー・ティッシュペーパー

### 備えておきたい食料品の事例

- ρ 水分補給ができるもの  
(スポーツ飲料、経口補水液、ゼリー飲料、ペットボトルや缶入りの飲料など)
- ρ 体調がすぐれない時でも食べやすいもの  
(レトルトのおかゆ、パックごはん、そうめんなど)
- ρ 調理が不要で簡単に食べられるもの  
(レトルト食品、缶詰、即席スープ、インスタント味噌汁、冷凍食品など)

1 ~ 2 週間分を目安に備えておきましょう